

才能は、7分野だけじゃない。

学術オリンピックに、公平で継続的な国の支援を求めます。

言語学、AI、天文学、経済学、脳科学、原子力科学——。世界の学術オリンピックに挑む中高生が、いま日本にいます。けれど国(JST)の支援対象は7分野の科学オリンピックとISEFのみ。線の外側では、代表に選ばれても、1人あたり推定約40万円(言語学の例)の派遣費と自己負担への同意が待っています。

現状 — いまの制度の線



※「支援なし」= 科学技術振興機構(JST)の支援一覧に未掲載(確認日:2026年6月24日)。このほかにも哲学など、支援の枠外の国際大会があります。

データ — 挑戦は増え、結果も出ている

言語学 応募者の伸び 約4.5倍 日本言語学オリンピック応募者。 2021年245人→2026年は過去最多の1,100人。	言語学 IOL派遣費(推定) 約40万円 1人あたり推定。国内受験料は3,000円。代表候補は自己負担への同意を求められる。	原子力科学 INSO 2025 全員メダル 日本代表は金1・銀2・銅2。実験試験最高得点賞・優秀女性参加者賞も受賞。	経済学 IEO 2027 日本開催へ 2027年8月開催予定。75の国・地域から、役員含め500人超が来日見込み。
---	---	---	--

求めること — 3つの要望

- 公開基準による支援対象の拡大**
大会名の列挙ではなく、公開された基準(継続性・参加国数・選抜の公平性・学術的水準・非営利性・教育的波及効果など)で評価する制度へ。
- 制度改正までの暫定派遣助成**
渡航費・参加費・保険・引率費を支える小規模な助成枠を設け、2~3大会での実証を経て本格支援へ。
- 検証できる透明性**
支援総額と配分・採否理由・参加実績・教育的成果・自己負担の変化を、年度別・分野別に公開。

求めないこと

- × 既存の支援は、削らない
7分野+ISEFへの支援削減は求めません。
- × 学校の負担は、増やさない
先生の事務負担を増やさない設計を前提にします。
- × メダル数だけで、測らない
裾野の広がりや教育効果も含めて評価すべきです。

支援の有無を分けているのは、才能の差でも、大会の格の差でもなく、**制度の線**だけ。

その線を、いっしょに引き直しませんか。



署名は無料・約1分。QRコードからどうぞ。

change.org で「学術オリンピックに国の支援を」を検索でも見つかります。
宛先:内閣総理大臣/文部科学大臣/科学技術振興機構(JST)理事長

出典:各大会公式サイト・JST公開情報(2026年6月時点)。数値・大会名は2026年6月24日確認。本資料の転載・配布は自由です。